青森県警察サイバー防犯ボランティアの委嘱と活動

当ボランティアセンターでは平成29年度から、青森県警察本部が実施するサイバー防犯に係る取組の一環であるサイバー防犯ボランティアへの参加学生募集及び派遣に対して協力を行っています。

令和４年６月６日(月)、弘前大学総合教育棟２階　大会議室にて、令和４年度の『弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式』を開催しました。

交付式では、委嘱された５名の学生を代表して人文社会科学部３年岡本 侑大さんが委嘱状の交付を受け、決意表明として「安全・安心なサイバー空間の確保に貢献する」と力強い言葉で宣誓を行いました。

７月21日には第一中学校において、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの啓蒙活動に参加し、９月には青森でのイベントで広報活動支援に参加しました。

ウクライナ人道支援募金活動の実施

令和４年２月、ロシア軍によるウクライナ侵攻が勃発しました。戦火が広がる中、住宅や病院、学校など民間施設への無差別攻撃が続き、子どもたちを含めた市民の犠牲が拡大していることを受け、令和４年４月11日から計６回、文京町キャンパスにおいて対面での募金活動を実施しました。また、ウクライナの現状を伝えるためのパネルを作成し、対面活動終了後は、ボランティアセンター前に募金箱を設置するとともに、パネル掲示とデジタルサイネージでの発信を行いました。

皆さまからはたくさんの支援募金をいただき、令和４年７月31日をもって受付を終了し、お預かりした募金は、日本ユニセフ協会へお渡ししました。

温かいご支援、ありがとうございました。

【受付期間】令和４年４月11日～令和４年７月31日
【募金総額】124,888円

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- 弘前市民の方　・・・・ひろさきボランティアセンター　TEL：0172-38-5595
- 弘前大学関係者　・・・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター　E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。
詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧いただくか、センターへ直接お電話等でご相談ください。
（※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。
審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。）

- 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター　TEL：0172-39-3268　平日午前10時～午後３時

HP
https://huvc.net/

Let's Try ！！
ボランティア参加学生の声をお届け

Twitter

Instagram

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター（HUVC）　平日午前10時～午後３時
〒036-8560　青森県弘前市文京町１番地
TEL：0172-39-3268　FAX：0172-34-5251　E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

2022年10月 発行
弘前大学地域創生本部ボランティアセンター（HUVC）

NEWSLETTER 第14号

８月大雨災害に対する支援活動報告

令和４年８月３日及び９日から数日続いた記録的な大雨で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。微力ながら当センターが取り組んできた活動をご報告申し上げます。

８月３日からの大雨に対し、弘前市およびひろさきボランティアセンターのボランティア募集の呼びかけを受け、本学ボランティアセンターでも、ボランティア学生の派遣を行うことにしました。最初の活動は、８月６日。曇り空の中、朝から50名近くのボランティアが参加していました。この日は、被害が大きかった大川地区、三世寺地区のりんご園地を中心に園地の清掃作業を行いました。夏休み期間中の急な呼びかけにも関わらず、学生16名、教職員２名が参加してくれました。現場に到着して最初に目に入った一面茶色のりんご園の風景に言葉を失いました。岩木山をバックに赤いりんごが輝く弘前の観光ポスターが頭に浮かび、一日でも早く、取り戻したいと思いました。翌７日も支援活動が組まれていましたが、雨で中止となってしまいました。

８月９日からの雨は前回より降水量が多く、より被害が拡大してしまったこともあり、その後は、毎週土曜日と日曜日に、弘前市・ひろさきボランティアセンターと連携して、継続的に学生および教職員を派遣しました。

今回の大雨では、青森県、秋田県、山形県など多くの地域で甚大な被害が発生し、また県内でも、弘前市だけでなく、深浦町、鰺ヶ沢町、外ヶ浜町、五所川原市など広域に被害が及んでいます。各地域で少しでも力になりたいという気持ちは山々でしたが、新型コロナウイルスの感染状況が厳しかったことと、夏休み期間中で学内での周知が十分でなかったことで弘前以外の地域まで活動を拡大することはできませんでした。そんな中、本学の柔道部を中心に、住宅浸水被害が多かった鰺ヶ沢町で、８月23日から４日間にわたり、支援活動が行われました。高齢者一人暮らしの家庭が多く、汚れた畳や家財道具の撤去に困っていた住民にとっては大変大きな力になったと思います。

また、なかなか進まない支援活動の中、大変嬉しい出来事もありました。８月25日岩手県野田村の皆さまがりんご園地に清掃活動に来てくださったことです。震災以降、今に至るまで継続的に支援・交流活動を続けてきた野田村の皆さまからは、今回の大雨被害がニュースで取り上げられるようになってから、心配のお電話やメール、メッセージを頂戴し「準備が整い次第、すぐにでも手伝いに行くから」と、とても力強いお言葉をいただきました。そして、本当に弘前まで来てくれたのです。「震災当時、弘前の方々にはこの何十倍もお世話になった。恩返しになれば」という記事に涙が止まりませんでした。

また、被災者の皆さんからは、「若い人が来てくれて元気が出る」「本当にきれいになった。おかげで来年のりんごは期待できる」など、たくさんの感謝の言葉をいただきました。

今回のような水害は、迅速な復旧作業が求められるため、できるだけ多くの人手で一気に作業を進めることが効率的です。ただ、今回は新型コロナウイルス感染拡大のリスクと、大学の夏休み期間中だったということで、多くの人手を確保することができませんでしたが、その中でも毎回コンスタントに参加してくれた学生の皆さんや、県外にいて参加できない人もチラシの作成やSNSなどでも周知活動に協力してくれました。一人一人の小さな思いやりが支援活動につながったことに、深く感謝します。

世界一のりんごを取り戻すためには、これからもさまざまな支援活動が必要になってくると思います。当センターでは、これからも被災者の皆さんに寄り添って歩んでいきたいと考えています。引き続き、ご協力の程、よろしくお願いします。

弘前大学ボランティアセンター長　李 永俊

令和4年8月大雨災害ボランティア参加人数

作業内容	場所	期間	回数	学生	教職員
りんご園の清掃	弘前市	８月	7回	55人	2人
		９月	8回	37人	1人
りんご園の清掃		計	15回	92人	3人
災害ゴミ搬出	弘前市	８月	1回	6人	1人
	鰺ヶ沢町	８月	3回	25人	3人
災害ゴミ搬出		計	4回	31人	4人
合　計			19回	123人	7人

８月大雨災害ボランティア活動に参加して

2022年８月、２度に渡って大雨が青森を襲った。被害は甚大、さっそく私は柔道部の学生と共にボランティアに参加することにした。弘前大学柔道部は稽古の傍ら、柔道の創始者嘉納治五郎の教え「自他共栄」を実践するべく、ボランティア活動に積極的に参加する頼もしき若者たちの集団である。

８月６日　弘前市内大川地区のりんご園地の復旧ボランティア。園地の木々は水に浸ったおよそ２mの高さを境に緑と灰色の２色に色分けされている。ひたすら泥や藁にまみれた樹木のクリーニング作業。園地の持ち主の老人が呟いた「たぶん、みんなダメだびょん」の言葉が胸に重くささる。

８月23日　早朝、自家用車に分乗して鰺ヶ沢町のボランティアセンターに向かう。初日午前中の作業は畳の運び出し。畳といえば柔道部、お任せくださいと言いたいところだが、水を吸った畳の重さは尋常ではない。人ひとり分は優にありそうな畳と汗まみれで格闘する。午後は床下の泥だし作業。

８月24日　本日も終日、泥だし作業。全国から鰺ヶ沢に集まったベテランボランティアが頼もしい。一口に床下の泥出しといってもいくつかの工程とさまざまなノウハウがある。力はあっても技がない柔道部、ベテランボランティアはさしずめ"お師匠様"ともいうべき存在か。

８月26日　今日もまた、泥だし。昼休みに近くのコンビニに買い出しに行く。店内はすっからかん、そこもまた泥だし中であった。近くの鉄橋はＶ字にひしゃげ復旧の見通しは立っていないという。

９月11日　市内大川地区再訪。前回のボランティアの直後、再度の大雨にみまわれた同地、被害は前回より大きく、樹木は完全に水没したという。足元には無数の腐りかけたりんご。作業の途中思わず踏み潰すとりんごジャムの甘い香り。秋だというのに、花を咲かせている樹がある。園主にわけを尋ねる。泥を被った葉が枯れると樹が季節を勘違いして芽を付けることがある、秋に花を咲かせた樹は翌年、実をつけないという。りんごの花は津軽の春の風物詩。狂い咲きさせないためには、なお多くの人手が必要である。

教育学部　准教授　髙橋 俊哉

８月大雨災害ボランティア活動に参加して

今回参加した大雨災害により被災したりんご園地の清掃ボランティアは、弘前大学ボランティアセンターの募集を見て知り、少しでも被災された農家さんの助けになればと思い応募しました。参加した初日はライオンズクラブの方々や高校生の運動部の方々と共に、りんご園地の漂流物の除去を中心に作業させていただきました。ぬかるんだ地面のなか、園地全体のゴミ拾いや、泥でダメになった物品の運搬を皆で真剣に取り組み、終わったときは達成感が溢れました。特に全面に泥が乗った敷物を班の人全員で泥から引っ張り出したときの一体感や達成感は忘れられません。

園地は広く、元通りになるまで大変な労力と時間が必要です。今回のボランティア活動に参加したことでわずかでも復興に貢献出来たら幸いです。

医学部保健学科２年　鈴木 萌

８月大雨災害ボランティア活動に参加して

私は、今年の８月に起きた大雨災害により被災したりんご農園を訪問し、災害ボランティアに携わらせて頂きました。今まで自然災害等による直接的な被害を受けたことがなかったということもあり、災害について深く考えたことはありませんでした。しかし、８月に発生した大雨災害を通じて、自然災害を他人事ではないと感じるようになりました。もし、私自身が被災してしまった時のことを想像すると、ボランティアの力は、復興を進めていく上で欠かせない存在であるに違いないと思いました。

ボランティア活動に参加したことで、様々な経験をすることができました。例えば、受け入れ先や他のボランティアの方々との交流を深められました。他のボランティアさんや受け入れ農家の方たちとたくさんお話をさせて頂いたり、多様な考え方・価値観に触れたりなど、充実した時間を過ごすことができました。また、大雨災害の実態について、メディアだけではなく、自分の目でしっかりと確かめることができたと思います。今回、複数の被災したりんご農家を訪問したのですが、りんごを生産することがどれほど大変であるかということを身に染みて感じました。

そして、農家の方々から感謝の言葉を頂き、非常に嬉しかったです。復旧作業は体力を必要とする大変なものばかりで、作業後はとても疲れてヘトヘトになってしまいました。それでも、農家の皆さまの笑顔を見ると、ボランティアに参加した甲斐があったと、私自身手応えを感じています。

最後に、自然災害はいつ起きるか分かりません。もしかしたら、自分自身が被災するということがあるかもしれません。だからこそ、これを読んで下さっている皆さまには、自然災害を他人事と思わないで頂きたいです。災害ボランティアの募集などがあれば、ぜひ一度参加してみてはいかがでしょうか？

人文社会科学研究会１年　塚本 晴智

令和３年度活動報告会の開催

令和４年３月10日(木)に弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会をオンライン(ZOOM)で開催しました。

本報告会はボランティアセンターの１年の活動を振り返るとともに、現在抱えている課題を洗い出し、次年度以降の運営に役立てることを目的として開催しました。

第一部の活動報告では、初めに学生ボランティアの活動が活発な関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室室長の関 嘉寛 氏、専属コーディネーターの小林 真綾 氏、元学生コーディネーター代表で文学部４年の中川 令実 氏による発表が行われました。その後、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生７名が、令和３年度の活動についてそれぞれ発表を行いました。

第二部のパネルディスカッションでは、ボランティア活動を通じて感じていることや今後の活動の方向性について意見交換を行いました。

今年は完全オンラインでの開催とはなりましたが、参加者からは「日々ボランティア活動に励む学生同士で意見交換をしたり、OB・OGの皆さんと交流したりすることができてよかった。」などの声が聞かれ、活発な報告会となりました。